

普及活動情勢報告（平成２８年５月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

環境制御技術の増収効果は？ ～ＪＡとさし胡瓜部会が研修会を開催～



栽培状況を熱心に確認する参加者

ＪＡとさし胡瓜部会は、４月２７日に担い手育成センターで環境制御技術の研修を行いました。

今回の研修は、担い手育成センターでのキュウリの環境制御技術実証で高収量が得られている状況を直接確認してもらうため、農業改良普及課で企画・実施しました。管内でも環境制御技術が導入されはじめ、関心が高まっていることから、当日は、２２名の農家が参加しました。参加者は「炭酸ガス局所施用のダクトはどのように設置したのか？」「細霧装置がなくても増収効果はあるのか？」など質問し、担当職員と熱心に意見交換していました。

農業改良普及課は、今後も環境制御技術の情報提供を続け、技術を普及するとともに、ＪＡと連携して技術導入農家の指導を行い、増収につながるよう支援していきます。

水晶文旦での天敵利用実証ほを設置 ～がんばれカブリダニ！～



調査中のＪＡ職員

土佐市では、施設栽培で「水晶文旦」や「土佐文旦」が栽培されており、県下有数の産地となっています。主要害虫の一つであるミカンハダニは、近年薬剤感受性の低下により、防除が難しくなっています。そこで、ＪＡとさし施設果樹部会は、天敵利用技術について検討し始めています。農業改良普及課は、ＪＡや農薬メーカー等の協力を得て、水晶文旦園で天敵利用実証ほを設置しました。４月１５日にカブリダニ類を放飼し、定着状況について調査を開始し、５月１０日の２回目の調査では、ミカンハダニの発生が若干みられるものの、カブリダニ類も確認できました。

農業改良普及課は、今後も１１月の収穫期まで継続して調査を行い、得られたデータを基に「天敵利用マニュアル」を改訂する予定です。

集落営農組織における協業栽培品目“ミシマサイコ”の定着を支援します

～ミシマサイコ生育調査～



雑草調査中

いの町大野内営農組合は、平成２７年度に耕作放棄地解消事業を導入し、２８年度にミシマサイコの協業栽培を始めました。しかし、ミシマサイコ栽培においては、発芽の不揃いや雑草の発生が問題であることから、農業改良普及課は営農組合や関係機関と連携し発芽率の向上およびマルチ被覆による雑草対策に関する実証試験を行うことになりました。

３月４日には種し、５月１３日調査を行い、マルチにより除草に係る作業時間の低減が認められるなど、一定の効果が見られました。

農業改良普及課は、関係機関と協力し、ミシマサイコの定着に向けた支援を継続します。